

# 「国際教育協力懇談会」中間報告概要

## （背景）

国際社会における初等中等教育の重視が鮮明化  
（ジェノバサミットで「ダカール行動計画」にコミット）

外務省「第二次ODA改革懇談会」中間報告  
・「日本の主体性・戦略性・体系性」のある協力が必要

中間報告の特徴：国際教育協力に関する基本的な方針を提示

## （基本的な方針）

### 国際教育協力の意義

- ・ 途上国における貧困脱出と持続的発展のための基盤づくり
- ・ 他文化理解と国際協調の精神を育成
- ・ 国民参加促進と途上国との共生深化
- ・ 我が国の「内なる国際化」の促進
- ・ 派遣された教員が国内の教育に生かせる点を発見し、教育現場へ還元。

### 重点分野と協力の進め方

初等中等教育分野の重視

我が国の教育経験の活用

### 具体的な取り組みに着手

- ・ 「女性教育」「健康教育」「環境教育」などを、途上国のニーズに合った協力を活用
- ・ 協力の経験の蓄積・伝達を行うための国内「拠点システム」の構築
- ・ 現職教員の参加促進

## （応用的な取り組み）

### 紛争解決後の国際教育協力

- ・ 「米百俵」の精神
- ・ 緊急対応は、長期の二国間協力を視野に入れ、国際機関、NGO と連携
- ・ 平時の対応を応用し、段階的・長期的な対応を検討

アフガニスタン復興を初め、個別地域に対し、文部科学省は施策を検討